

令和4年度 小林市立三松中学校 学校関係者評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

■ 学校経営ビジョン

「一人一人を大切に作る教育」を基盤とし、生徒が明るく生き生きと自己を発揮でき、「生徒が主体となる学校づくり」を推進することをとおして、自己実現と社会に貢献する生徒を育成する。

【学校教育目標を達成するための重点目標：重点目標を達成するための具体的な取組】

重点目標	目標達成のための手段	具体的な数値目標等	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価 (数値)	関係者 評価	学校関係者評価コメント
確かな学力の向上	1 基礎・基本の定着と「楽しい・分かった・できた」を実感させる授業づくりの工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業がよく分かる割合55% 1月実施の実力テストが全学年とも地区平均点以上 英検IBA3級合格レベル以上の割合30%以上 	<p>○かなり ICT 活用した取り組みがなされ、生徒が意欲的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。</p> <p>○年2回の重点支援校訪問により、一人一人の授業改善に対する意識に向上が見られた。</p> <p>○全学年が同じ問題に取り組むテスト（各教科の基本的事項に関する内容）を実施しては？</p> <p>*相互参観がしやすいように「参観ウィーク」等の機会設定ができるとよい。</p> <p>*C判定の生徒への補充指導</p>	2. 7	3. 2	<p>○ 学習意欲の向上、授業力の向上など、数字だけでは評価できないところがたくさんあると思います。先生方の日々の努力に感謝いたします。</p> <p>○ 授業中の生き生きとした生徒の表情が印象的だった。先生方の授業に対する取組や工夫など成果を感じられた。</p> <p>○ さまざまな取組の結果、生徒の学習意欲と教師の授業力が向上しているとの報告に、学力向上に対する学校の積極的な姿勢を感じます。相互参観、補充指導、授業改善チェックポイントなど、新たな改善策も出されていますので、今後の成果が楽しみです。英検 IBA（3級合格レベル）の目標は、生徒と教師にとって良い動機づけになると思います。</p>
	2 主体的・対話的で深い学びの実現とICT機器（タブレット等）の効果的な活用による授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業でICT（タブレット）を活用できる教員90%以上 	<p>○必要な活動に応じて活用することができた。</p> <p>○教員への1人1台の配置もあり、授業で活用しやすくなった。</p> <p>○みんなが積極的に活用できた。</p> <p>○研修や主題研での情報交換等を通して、効果的な活用が増えたように思います。</p> <p>○昨年度に引き続き、ICTを活用しながら授業を組み立てる意識がさらに向上した。</p> <p>○タブレットPCの活用頻度は、格段に上がった。</p> <p>○各教科においてタブレットを積極的に活用して授業を行っている場面が多く見られるようになってきた。</p> <p>●まだまだ使いこなせない。</p> <p>●話し合い活動におけるICT活用には、課題がある。</p>	3. 1	3. 7	<p>○ 「ICTを活用できる教員90%」と同時に、「教科の特性に応じたタブレット端末を用いての主体的・対話的な授業づくり」に臨まれていることに敬意を表します。新しい技術や指導法への対応が大変でしょうが、よろしくお祈いします。</p> <p>○ 情報モラル教育については、「～しないように」ではなく、デジタル・シティズンシップの視点での取組に期待しています。参観日での3年生の情報モラル教室は、後半の一部しか参観できませんでしたが、家庭での話合いの方法と重要なポイントが具体的に示されていて、大変参考になりました。数値で紹介されたSNSによるトラブルは説得力がありました。</p> <p>○ ICT教育の重要性を先生方が十分認識されているからこそこの90%の活用率だと思います。</p> <p>○ この1年間でICTがすごく進んでいると思う。</p> <p>○ 1、2年生のタブレットを活用してのプレゼンがとてごたえがあり、大変良かったです。</p> <p>○ 今年度より先生方が保有できるようになり、生徒によるパワーポイント作成など操作能力も上達したと思う。また、プレゼン（発表）も取り入れ効果的なICT活用を実践しており、更なる向上を期待したい。</p>
	3 授業と連動した家庭学習における課題の工夫：家庭学習の質の向上		<p>○毎週の週末課題を実施できた。</p> <p>●学校全体として方向性を明確にできず、組織的な対応を展開することができなかった。</p> <p>●家庭学習の質が低い。</p> <p>●家庭学習の習慣化がまだまだという生徒が多いように思う。タブレットが十分活用されていないように思う。</p> <p>●家庭学習において、タブレットを活用した課題にどのように取り組ませていくのか、検討していく必要がある。</p> <p>*タブレットを家庭学習でも活用できるような手立てを考えていきたい。(オンラインでもオフラインでも対応できるように)</p> <p>*レベルに合わせた課題設定が必要ではないか。</p>	2. 3	2. 5	<p>○ 受験に向けて、先生の為にも子どもの為にも面接だけでなく、学力やメンタル面をサポートしてくださる外部指導があるといいなあと感じました。クラスというより個人の学力レベル、学びに対する意識などとても差があるように感じました。レベルに合わせた課題設定がとっても必要だと思いました。</p> <p>○ 家庭での学習の取組は保護者や生徒の考え方にばらつきがあり、個別対応は先生方の手間や負担となり解決方法も問題となっている。</p> <p>○ 自宅にタブレットを持ち帰って、家庭学習するとき扱い方がわからないのでは。慣れたら大丈夫だと思います。</p> <p>○ なかなか家庭学習までコントロールしていくのは難しいところだと思いますが、今後も力を入れてもらいたいところですよ。</p> <p>○ 家庭学習は悩ましい問題です。自己評価にも厳しい文言がありますが、「レベルに合わせた課題設定」や「与えられる課題から自らの課題へ」とのキーワードもあり、ある程度の方向性が感じられます。具体的な対応が難しい項目ですが、まずは一歩踏み出すことでしょう。</p>
	4 特別活動を要として各教科等の特長に応じて多様なキャリア発達を促し、多様なキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「学び態度」70%以上 	<p>○職場体験学習に積極的に取り組んだ。</p> <p>○地域人材を活用し授業が各学年とも実施されていた。</p> <p>○人材活用については、計画的かつ効果的な活用が図れた。</p> <p>○農業体験、13歳のハローワークなど、外部の地域人材をたくさん活用して、生徒たちに多くの学びの場を与えることができています。</p>			<p>○ キャリア教育の職場体験学習では、地域の職業のみならず人や地域を知る機会となっている。少子高齢化による地域課題や地域づくりを、地域と学校が協働し生徒の学びを深める取組もお願いしたい。</p> <p>○ 農業体験や神楽、オンラインでの交流学習など、さまざまな活動を見せていただき、三松中は優れた取組をしていると思いま</p>

	4 特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じてキャリア発達を促し、多様な気付きや発見を得させるキャリア教育の充実		○各学年において総合的な学習の時間を中心に、地域人材等の活用や地域との連携による学習が展開できている。 ●キャリアパスポートの有効活用方法が見いだせない。 *キャリアパスポートに関しては、定期的を書いて記録を残すだけにならないよう、書かせた後の指導にも活用できるようにしていく必要がある。	3. 0	3. 4	す。特に、参観日での「職場体験」と「13歳のハローワーク」の発表会は、「生徒自身の振り返り」と「保護者との活動の共有」という点で、参考になりました。活動自体を目的とするのではなく、活動をきっかけに、生徒と学校、保護者と地域の成長や変化に繋げることが大切だと考えます。「キャリアパスポート」は、その一助になることでしょう。 ○13歳のハローワーク、各班に分かれ、タブレットを使い、とても分かりやすい授業でした。コロナ禍で受け入れてくれた企業にも感謝です!! ○学び態度の向上はすばらしいと思います。
豊かな心の醸成	1 自己存在感や充実感を得られる「居場所づくり」と生徒一人一人が活躍し、互いに認め合い、高め合える「絆づくり」の推進	<ul style="list-style-type: none"> Q-U検査における学級満足度70%以上 新規の不登校0 いじめの解消率100% 	<p>○職員全体（学年）で共通理解を図り、保護者と連携し、指導を行った。</p> <p>○生徒総会や体育大会など、生徒が主体的に企画・立案・実行する場面が設定され、生徒一人一人の活躍場面が増えている。そのことにより、全体として集団力の向上へとつながり、学校の活性化が図られている。</p> <p>○QUテスト結果を細かく分析し、具体的な取組を展開したことにより、よりよい学年・学級経営につながっている。（学級生活満足度 第1回63% ⇒ 第2回70%）</p> <p>○Q-Uの活用や研修も効果的だったし、いじめに対する指導や不登校に対する手立ても手厚かったと思う。</p> <p>○夏休みの研修を受けて、取り組みができていたのではないかな。</p> <p>○すべてのクラスがより良い方向に進んだ。</p> <p>○どの学級も、第2回の結果が上がっていました。QU研修を生かした個別の対応ができていたのではないのでしょうか。</p> <p>○全クラス「親和的でまとまりのある集団」の評価は素晴らしい。</p> <p>○QU分析を行い、意識して個別への対応を行った。</p> <p>○QU分析の時間が確保されており、学年職員で共通理解が図られ、有意義な時間となり、効果的な学級経営に生かすことができていたと感じる。</p> <p>○運動会や文化祭など、生徒が主体となって行事を作り上げることを目標とし実行することができた。</p> <p>●QU分析結果はある程度、全職員で分析活用ができていると思うが、学年職員でその後どうだったか、ゆっくり検証できる時間がとれないのでは。検査結果を十分に活用できていないのではと思う。</p>	3. 3	3. 6	<p>○体育大会、文化発表会など、生徒ひとりひとりがイキイキと活動していたのがとても印象的でした。</p> <p>○QU検査で学級満足度が向上していることや不登校生徒への対応についての説明を聞き、先生方の熱心な取組に感謝しています。コロナ禍で集団づくりが難しいことも多々あるでしょうが、「生徒が主体となる学校づくり」をよろしく願います。</p> <p>○コロナでの規制も、最近は少しずつ緩和され、集団行動が出来て良い方向に進んでいる。</p> <p>○生徒さんたちの主体性を重視した取組は素晴らしいです。</p> <p>○学校に行きたくても行けないヤングケアラーの生徒はいないと報告があり、安堵した。始業時間に遅れても、登校しやすい環境づくりができており、不登校の生徒が家庭や社会から孤立しないように心に寄り添い、柔軟な対応に努めている。</p>
	2 ベクトルを合わせた積極的な生徒指導の充実により「規律と礼儀」を重んじた学校づくりの推進：「凡事徹底」	<ul style="list-style-type: none"> 職員の自己評価（4段階）で、3.0以上 	<p>○日常的な意識付けにより規範意識や礼儀作法に向上が見られ、学校全体に規律正しく落ち着いた雰囲気醸成されている。</p> <p>●生徒の主体的な取組を増やすべき。</p> <p>*規律を守ることと個に応じた指導のバランスを保てるような、新しい指導のあり方を今後検討していきたい。</p>	3. 0	3. 2	<p>○先生方の自己評価が全体的に上がっており嬉しく思う。</p> <p>○出勤途中、校門でのあいさつの風景をよく見えています。丁寧にお辞儀をしている生徒が多いですね。校長先生から「語先後礼」のお話を聞きました。あいさつはコミュニケーションの第一歩、あいさつから生まれる効果もたくさんあることでしょう。</p>
	3 考え議論する道徳（道徳科）を核とする道徳教育の充実と行事や体験活動を通じた道徳的実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 職員の自己評価（4段階）で、3.0以上 	<p>○学年職員で道徳の授業を実践できた。</p> <p>○指導書通りではなく、どのような問いなら意見が出やすいか…など、授業者同士で相談しながら授業づくりをしています。</p> <p>○体験活動との関連を意識して、道徳の授業が実践できていた。</p> <p>○各学年において「道徳科」の授業が確実に実施されており、タブレットを活用した主体的な取組も見られるようになってきている。</p> <p>*様々な価値観に触れさせ、考え議論する道徳の授業を展開するためには、学担だけでなく、全職員での指導が望ましいと思う。</p>	3. 0	3. 6	<p>○「道徳ができれば一人前」と、昔、先輩の教師から言われたことがあります。三松中では、「授業実践が確実に行われている」とのこと、とても素晴らしいと思います。加えて、全職員で指導する「ローテーション道徳」も行っているとのこと。生徒理解に大いに役立つものと期待しています。</p> <p>○効果的な道徳の授業となるよう、先生方の工夫が見られる。</p>
	4 心身に健康をもたらす読書活動・図書館活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 読書の一人平均12冊以上の割合60% 	<p>○読解力の向上や、情緒面の発達を促すためにも、読書に親しませる取組は重要だと考える。</p> <p>○図書祭りを実施できた。</p> <p>○読書の習慣化が図れ、親しむ生徒は多い。</p> <p>●本の選定については、定期的な助言等が必要かもしれない。</p> <p>*学校全体としてさらに図書館活用の推進を図る必要がある。</p>	2. 5	3. 3	<p>○小学生から定期的な保護者による読み聞かせも継続されており、生徒の精神的安定が図れていると思う。</p> <p>○読書に関し今後電子書籍の普及など図書館離れも想定される。</p> <p>○「読書の一人平均12冊以上」の結果が、昨年度より低くなっています。しかし、「読み聞かせ」に真剣に耳を傾けている様子から、本に親しんでいる生徒が多いのが分かります。図書館活用のアイデアも生まれているようですので、これからの伸びに期待しています。</p>

	5 道徳の時間や人権教育を通じた「いのちを大切にす る教育」の推進	・ 年間における取組を2回以上	○全校で取り組んだ。 ○SOS の出し方教育を実施することができた。また、相談窓 口の周知を行うことができた。	3. 1	3. 3	○ SOSの出し方教育ができたのはとても良かった。大人にな っても必要だと思います。 ○ STT (ソーシャルスキルトレーニング) は、SOS発信に 向けた学習との説明であったが、対人援助にも有用で相手の気持 ちや価値観を知る訓練となり、円滑な関係構築に有益な取組のた め、心の成長や変容が期待される。 ○ 「SOS の出し方教育」に、「なるほど!」と思いました。「相 談してください」だけでなく、誰にどのように相談するのか、具 体的な方法を身につけておくことは、命と人権を守るためには欠 かせません。大変参考になりました。
健やかな体の 育成	1 運動や生活習慣への意識 向上に向けた活動の充実: 体力向上プランの実践	・ 体力テスト48項目中24項目以 上が県平均以上	○前年度の結果と比べてかなり改善が見られた。 ○昨年度から大きな進歩を遂げている。 ○体力テストにおける数値目標を達成できたことは成果であ る。また、昼休み時間に体を動かす生徒が多く、運動への関 心は高い。	2. 9	3. 7	○ 普段から運動量も確保できており、体力向上の取組は目標達 成した。 ○ 体力テストの数値目標が達成できたことは、「体力向上プラン」 の成果の一つでしょう。今後の方向性として「小中連携による体 力向上への取組」とあるように、小・中の担当者による情報交換 など、できることから始めていただければと思います。
	2 学校保健委員会における 学校医との連携による健康 教育の充実	・ 虫歯治療率75%以上 ・ 肥満率10%以下	○講演会を実施できた。 ○学校保健委員会の講演会では、子どもたちにも身近に感じ ることができる内容であり、有意義な時間であった。 ○性教育の授業が計画的にされていた。 *長期休業を利用して治療を促すよう、養護教諭と学担、部 活動顧問や保健体育部の先生方などが連携して取り組む必要 がある。	2. 6	3. 2	○ 昨年度に比べると、虫歯の治療率が下がっているようです。 教師間の連携や保護者への啓発などの対策を講じられるとのこと ですので、今後の対策に期待しています。 ○ 虫歯治療率の達成に個別対応も必要ではないかと思う。
望ましい食習慣の 定着	1 マナーを高め、食の大切 さや素晴らしさを感じ、感 謝の心を育てる給食指導の 充実	・ 残食ゼロ達成日80%以上	○残食量は確実に減少している ○給食委員会の取組や放送の結果、残食がほとんどなくなっ ている。 ○欠席の多い中、かなり頑張ったといえる。 ○学年の生徒・職員の協力のもと、残食ゼロを意識した活動 ができていた。 ○かなり残食はなくなってきていると思う。 ○生徒の職に対する意識の向上が見られ、残食ゼロの日が確 実に増えている。 ○食育コーナーの設置や食育クイズ等も効果的であった。 ●残食0達成日が80%以上できなかった。	3. 4	3. 7	○ 生徒の認識を高め、残食現象の取組達成となった。 ○ 給食委員会が率先して活動している様子が、自己評価の文面 から伝わってきます。「残食ゼロ達成日が72% (1月末現在)」と あり、目標の80%に少しでも近づけてほしいと思います。
	2 「弁当の日」の充実と教 育活動全体を通じた食に関 する指導の推進	・ 自分で作った弁当を持参する生徒 50% ・ 朝食欠食0%	○弁当の日を家族と一緒に弁当の内容や食について考えるこ とができる大切な日になっていると感じた(弁当の日)。 ○弁当の日が実施できた。生徒も頑張って作っていた。 ○食への関心や感謝の念を高めるために、こすもす科の授業 を実践できた。 ○目標は達成できなかったが、保護者と一緒に作った割合を 合計すると88%となっており、全体的に高い意識で取り組め たのではないかと思う。 ●自分一人ですべて作った生徒が少数だった。 ●「弁当の日」の実施にあたり、どの程度の生徒が弁当づく りに関わっているか疑問をもってしまう。 *調理実習と連動させ、自分で簡単な料理ができるようになる 手立てを考えていくと良いと思う。	2. 8	3. 3	○ 先生方が食育にも熱心に取り組まれているのがよく分かりま した。食の指導は、生徒自身のことにとどまらず、命や環境、食 糧の問題など、SDGsに関する世界に目を向けるきっかけになり ます。弁当の日や「朝食欠食0」はとても良い取組だと思います。 ○ 弁当の日の取組は、家庭ごとの保護者の関わり方に違いがあ ると推察される。食に関心を持つきっかけ作りになっていると思 う。
その他	1 時間管理と計画的な業務 の遂行により、効率化を図 る。	・ リフレッシュデー以外の日で部活 動がない日は午後5時30分までに 全員退校する。	○全員かどうかは見届けていないが自分自身はできていた。 ○見通しをもって業務遂行に努めてきたが、やはり厳しかった。 ○リフレッシュデーの定時退庁は、随分と意識が高まったと 感じる。 ●夕方以降でないと連絡がつかない保護者への対応が難しい と感じた。 *リフレッシュデーは定時、その他部活動のない日は5時半 までには退庁する、というメリハリのある勤務をさらに意識 づけしていく必要がある。 *電話対応について、欠席連絡等は安心安全メールなどで、 対応できることを願います。 *リフレッシュデーにおける定時退庁の意識をさらに高めて いく必要がある。(突発的、やむを得ない業務を除き残業をし ない意識で過ごす)。 *電話連絡や相談対応時間は方針を広く周知する必要がある。 ・市教委への留守番電話設置の要望を継続したい。	2. 6	3. 2	○ 働き方改革を積極的に進めていこうという学校の取組を応援 しています。昨年度も書きましたが、「子どもたちのために」とい う言葉は、教師にとって、ある面、魅力的な響きがします。しか し、その行動が子どもたちのためなのかどうかを、客観的、長期 的に見る冷静な判断が必要でしょう。先生方が心も体も元気で学 校に居ることこそが「子どもたちのため」だと思います。 ○ 煩雑な業務内容に伴い定時退庁が難しい中、先生方は達成に 向け効率化を図っていると思う。また、業務内容の見直しのため 時間外の電話対応に留守番電話導入の必要性が高いため、検討を 要望する。

